

震災等対策委員会だより No.7 ①

会長 尾崎 祐三 震災等対策委員長 明官 茂

被災地校からの情報やお礼

今大会において、被災地の校長先生から情報提供をしていただき時間を設けました。
また、事前に文書にて礼状等も頂いております。
そこで、今回はその特集といたしました。

【宮城県】

全国特別支援学校長会 会長 様

この度の東日本大震災に係る災害につきまして、貴会よりお見舞い金を頂戴いたしまして、心より感謝申し上げます。
別添として礼状を添付しましたので、よろしくお取り計らい願います。

平成23年6月7日

全国特別支援学校長会 会長 尾崎 祐三 殿

宮城県特別支援学校会 会長 櫻田 博

(石巻支援学校長)

東日本大震災による災害へのお見舞いについて (お礼)

初夏の候 貴殿におかれましてはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また、本県の特別支援学校長会につきましては、日ごろより格別の御理解と御指導を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度の東日本大震災という未曾有の災害に対しまして、貴会より特別の御配慮を賜りお見舞い金を頂戴いたしまして、心から感謝いたします。

本県の特別支援学校長会でお見舞い金の取扱について検討したところ、児童生徒の人的・物的被害が最も甚大であった石巻支援学校に集中配当するという事になりました。石巻支援学校としては、今回の震災で地域の避難所としての運営を余儀なくされた事を教訓として、お見舞い金を避難所運営に係る災害用備蓄品の購入に主として充当する予定でございます。

つきましては、今後とも本県特別支援学校長会に対しまして一層の御理解と御指導を賜りますようお願い申し上げます。お礼の言葉といたします。

【茨城県】

いつもお世話になります。このたびの大震災に際しまして、全特長会様より頂いた義援金に対してのお礼状を添付いたしますのでよろしくお願います。

全国特別支援学校長会会長 様

この度の東日本大震災に際しましては、いち早く全国特別支援学校長会様より多大なるお見舞金を頂戴いたしまして誠にありがとうございます。

大震災から3ヶ月が過ぎ、余震の回数も大分少なくなり、茨城県の特別支援学校はほぼ普通に教育活動が進められております。

3月11日の大震災は、震度6強から5強という大きな揺れが何回か繰り返し襲い、当日は保護者と連絡が取れずに学校で一夜を過ごした児童生徒もおりました。県内22校の特別支援学校のすべてが停電、断水、交通遮断、電話等のライフラインの切断、遮断から休校となりました。太平洋沿岸に位置する学校や県北、県央(水戸周辺)の学校では施設設備の被害も大きく、天井の落下、給水管の破裂等が多数見られました。しかし、2日から1週間程度の休校でライフラインが何とか復旧し、3月中には全校で卒業式も行うことができました。地震による爪痕は、まだあちこちに残っています。体育館が現在も使用できない学校が2校ありますが、児童生徒や職員が全員無事で現在学校生活を送っておりますことは最大の喜びです。

この度の震災では、これまでの災害への危機管理の甘さやもろさを痛感したところでした。そのため各校とも危機管理マニュアルの見直しや、複合的な災害への対応シミュレーションの強化に一層の力を注いでいるところです。

全国特別支援学校長会様からいただきました御厚意は、県内22校の特別支援学校でそれぞれ有意義に使わせて頂いております。多くの学校は、電気やガス等が使えない状況を体験しましたので、災害時の一時的な危機を乗り切るための食料備蓄や防災用品の購入に使わせていただいています。

また、他県の特別支援学校や特別支援学級の児童生徒の方々から、励ましのメッセージや色紙、幟(のぼり)等をいただいた学校もあり、みんなに励まされている、助けられているという思いを深くした機会でもありました。

最近では、隣接県にある福島原発による放射能の影響について、校外活動やプール学習等への不安感が話題になっており、放射線量の測定を全特別支援学校でも行ったところでした。一日も早く安全で安心な学校生活を送れる日々が取り戻せるよう願っています。

この度は誠にありがとうございました。

茨城県特別支援学校長会長

県立協和養護学校長 鶴見美紀

震災等対策委員会だより No.7②

会長 尾崎 祐三 震災等対策委員長 明官 茂

被災地へ支援物資送付について

支援物資の送品について（震災等対策委員会より）

校長先生方へ

たびたびのご連絡ありがとうございました。

ご依頼のありました支援物資関しましてはすべて発注を終え、順次お届けできる予定です。発注した業者より、物資に関し各学校の方へ直接電話連絡が入るケースがありますできるだけ、ご希望の品をお届けするための連絡ですので、ご回答よろしく願いいたします。

また、国立特別支援教育総合研究所の職員一同様より、趣旨をご理解いただき、全特長に多額のおこころざしをいただきました。今回の物資の支援に関しましては、全特長特別会計に加え、特総研の支援金より支出させていただいておりますことをお伝えしておきます。

恐れ入りますが、送品が完了いたしましたら、このメールで送品完了の報告をしていただけますと助かります。

よろしく願いいたします。

全特長事務局次長

東京都立府中朝日特別支援学校 校長 葛岡 裕

<お礼の返事>

【福島県】

このたびは大変お世話になりました。ありがとうございます。

お忙しい中、富岡養護学校のためにお骨折りいただきまして感謝の気持ちでいっぱいです。

現在、本校は分教室という形で県内8校の特別支援学校に分散して、教育活動を行っております。

本校の教員の約半数（48名）も警戒区域内に居住しており、県内各地で避難生活を余儀なくされている状況です。

4月14日に一人一人の希望を聞き、それぞれの避難先から勤務できる特別支援学校への兼務の辞令を発令していただき、それぞれの地で分教室にいる児童生徒の指導に当たっています。

私自身も家族とともに富岡町で生活しておりましたので、現在は郡山市に居住しております。

水着、バランスボールは今週届き、各分教室に配付いたしました。子どもたちは大変喜んでおります。

現在、児童生徒数は59名で、東洋学園を利用されていた児童生徒は千葉県立鴨川青年の家に避難し、千葉県立安房特別支援学校の分教室で学習しております。

千葉県教育委員会にも大変お世話になり、先日御礼に行ってきたところです。また、県外へ避難された子どもたちは区域外就学でお世話になっております。避難生活が3か月を経過し、保護者の皆様の職場の関係等で福島県に戻ってこられる方々も増えてきております。故郷に近い場所にいたいとの思いが強くなってきているのだと思います。

現在、本校の本部を郡山市にある養護教育センター内に置かせていただき、執務をしております。事務職員3名も6月1日付で異動となり、事務長も7月1日付で異動となる予定です。今後は私と教頭（事務長兼務）で本校再開のための仕事に当たっていくこととなります。まだまだ、厳しい状況が続きますが、「まげでたまっか！」と全職員を励ましている毎日です。各分教室へは、月2回程度巡回して子どもたちの活動の様子を見せてもらい、教員一人一人と話し合う時間をとっています。県教育委員会とも連携しながら今後の学校再建への道を模索しております。

本来ですと、全特長研究大会で全国の先生方に御礼を申し上げるべきところですが、今回は本県の特別支援学校長会会長が代表で参加し御礼申し上げます。

全特長の尾崎会長はじめ全国の皆様、国立特別支援教育総合研究所の皆様のお心遣い感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成23年6月24日

福島県立富岡養護学校長 大関 彰久

【岩手県】

大変お世話になっております。

支援物資の送付、ありがとうございました。

23日（木）に届きました。大切に使用させていただきます。

いろいろとありがとうございます。

岩手県立宮古恵風支援学校

校長 濱田 肇

@@

<礼状の続き>

【岩手県】

いつも大変お世話になっております。

過日の義援金等に関する正式な礼状につきまして、遅くなりましたが添付ファイルにてお送りいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

岩手県内で被災の大きかった沿岸地区3校の特別支援学校の校長から「心から感謝します」との文章が寄せられております。

岩手県の特別支援学校の校長会を代表いたしまして、改めて感謝を申し上げます。（裏面に続く）